

# 八幡市 様

行政情報化の推進に伴って増加するサーバを Hyper-V により集約  
サーバ台数を 1/3 に削減し、省スペース、省電力を実現

歴史と自然に彩られた八幡市は、行政を支える地域イントラネットシステムのリプレースにおいて、PC サーバ PRIMERGY + Hyper-V を導入し、仮想化によるサーバ集約を実現しました。サーバ台数は 1/3 となりスペース不足も解消、運用管理コストも大幅に削減。サーバ性能の向上やリソースの最適化により消費電力量も削減し環境負荷の軽減にも貢献しています。また、コストを抑制しながら、ライブマイグレーション構成により可用性を高め、業務継続性の向上も図っています。

## 導入事例概要

業 種：自治体

ハードウェア：PC サーバ PRIMERGY RX300 S6、ストレージ ETERNUS DX60

ソフトウェア：仮想化ソフトウェア Windows Server 2008 R2 Hyper-V、SCVMM (System Center Virtual Machine Manager 2008 R2)

### 課題

行政情報化の推進に伴うサーバ台数の増加により設置スペースが不足していた

消費電力量を削減し環境負荷の軽減を図りたい

ハードウェアの障害による復旧に長時間を要していた

### 効果

仮想化によるサーバ集約で、12 台のサーバを 4 台に。ラック 1 本ですべてのシステムを収容。サーバ保守費用も 1/3 に削減

サーバ性能の向上により従来製品と比べて大幅に消費電力量を削減。さらにリソースの最適化により省電力効果を拡大

ライブマイグレーション構成によりシステムの可用性が向上。1 台のサーバがダウンしても仮想マシンが自動的に他のサーバに移動して再起動。復旧時間を短縮し、業務継続性が向上

## 導入の背景

### 八幡市の行政を担う地域イントラネットシステムが抱えた課題

長い木造の橋の上を江戸時代の旅人が行き来する光景は、時代劇などでよく見かけます。そのロケ地として知られる日本最大級の木造橋、流れ橋をはじめ、徳川家光が造営した社



総務部  
IT 推進課 IT 推進係  
係長  
岩崎 真哉 氏

殿のある石清水八幡宮、四季折々に多彩な表情をもつ男山、木津川・宇治川・桂川の三川が合流した地に広がる田園風景、京都の味が楽しめる松花堂弁当など、八幡市は歴史文化と自然が織りなす詩情豊かな町です。

また、京都府の南西部、京都市と大阪

市の中に位置することから、住宅適地としての顔もあります。2002 年には「人と自然が共生する環境にやさしいまち」づくりに向けて環境自治体宣言も行っています。

この歴史と自然を守り、心豊かな暮らしを支えていく八幡市。八幡市の ICT インフラである地域イントラネットシステムは、市職員がメールやグループウェア等日常業務で利用している、行政の中核をなすシステムです。

「2002 年に導入した地域イントラネットシステムは、2010 年のシステム更新にあたって、システムの老朽化とともに行政情報化の推進に伴うサーバ台数の増大や安定稼働、業務継続性、省電力による環境負荷の軽減などさまざまな課題が生じていました」と、八幡市 総務部 IT 推進課 IT 推進係 係長 岩崎真哉氏は語ります。

## 導入のポイント

### システムの安定稼働と省スペース化を実現するために仮想化を採用

従来の地域イントラネットシステムにおいて重要な課題が、システムの安定稼働の実現でした。「コスト削減の観点から、ドメインコントローラやグループウェアなどが同じサーバ上で動作していたため、1 つのアプリケーションを変更すると、同居している他の業務に影響が出てしまうことがありました。またハードウェア障害時の業務への影響拡大もリスクとなっていました」(岩崎氏)。

安定稼働のために「1 台のサーバは 1 つの業務にしたい」(岩崎氏)。そのためには多数のサーバが必要になりますが、設置スペースに余裕はありませんでした。「情報系システム、基幹系システム、教育情報システムのすべてのサーバが同じサーバールームの中に収容されています。基幹系システムの更新に伴う新旧サーバの並行稼働もあり、サーバールームのス

